

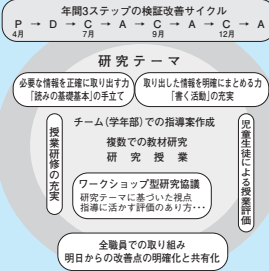
事前検討会を工夫して授業研究を充実させる取り組み

<D小学校学級数7>授業研究会を全職員の研究にするため、全教職員で研究テーマとの関連や学習過程などについて事前検討会を行っています。授業研究会後は共通実践事項を確認し、明日の授業につながる工夫をしています。

授業研究の流れ

事前…全職員による授業づくり

- 検討会①→研究テーマとの関連
ねらい、評価規準等
- 検討会②→学習活動、板書計画
評価問題等
- 検討会③→研究推進委員会で再
検討



ワークショップ型授業研究会

協議の視点→事前検討会で焦点
化された課題等
まとめ→共通実践事項の確認



(例) 発問の工夫

中心発問を吹き出し
黒板に記入する

学習の約束の徹底

学習の約束を教室掲示するだけでなく、
家庭に配付し、保護者にも呼びかける

事後…共通実践事項の継続

<E中学校 学級数9>教科を超えたチーム編成で事前検討会を行い、授業力向上を目指した取り組みをしています。

授業研究の流れ

(例) 3教科同時の授業研究会

事前…複数教科で5人ずつ 3チーム編成

- 検討会①→研究テーマとの
関連
- 検討会②→学習活動や発問、
板書計画等
(生徒目線から)

ワークショップ型授業研究会

- 検討会と同チームで生徒の姿を
基にした建設的な意見交換
(教師の同僚性)
 - 他教科から指導技術の学び合い
 - 共通実践事項の確認
- (例) 学習課題とまとめの整合性

事後…共通実践事項の継続

補充的学習と家庭学習をリンクした取り組み

<F小学校 学級数7>全学年において、国語や算数の基礎・基本の定着や子ども自ら主体的に学習に取り組む意欲の向上等を目指すために、日課表に補充的学習を位置付け計画的に実践している。補充的学習との連動及び家庭との連携により、家庭学習の習慣化も図っています。

チャレンジタイム

<目的>

- 国語と算数の基礎・基本の定着
(回復指導含む)
- 発展的な内容や活用問題へ挑戦する場の設定
- 主体的に学習に取り組む意欲の向上

<取り組み>

- ・全学年週4回実施……帰りの会の前20分間
- ・学級担任以外が担当…学級担任はサポート
- ・事前チェック……学習内容を計画表に
記入
プリント類は自己選択

プリント倉庫の活用

特別教室や廊下の棚にプリント類を保管

全国・県学習状況調査問題、単元評価問題(過去問題含む)、
ワークブック、ローマ字プリント等

いつでも自由にも選べるプリント倉庫
回復指導や家庭学習にも活用

家庭学習

保護者の理解を得る

- ・趣旨の説明
- ・手引きの配付
- ・時間や内容の確認

学級担任が
家庭学習の計画
を確認

学級担任が家庭
学習をチェック
し奨励

家庭学習のてびき

学年のめあて

低学年…毎日机にむかって学習する習慣を身に付けよう
 中学年…学校で学習したことをさらに深めよう
 高学年…自分の学習の仕方を身に付けよう

みんなのやくそく

- ①自分から進んで静かなところで学習しよう。
学習する時間を決めよう。
(10分×学年)
- ②家庭学習ノートには、日付・始めた時刻・終わった時刻・学習内容・ふりがえりを書きましょう。
- ③学習のメニューをヒントにどんな学習をするか決めていきましょう。チャレンジルームに準備をしているプリント類も活用できます。
- ④答え合わせのできるものは、答え合わせをしてみよう。
- ⑤困った時は、担任の先生に相談をして教えてもらいましょう。

リレーノート

家庭学習ノートを学級や生活班で回して活用する。

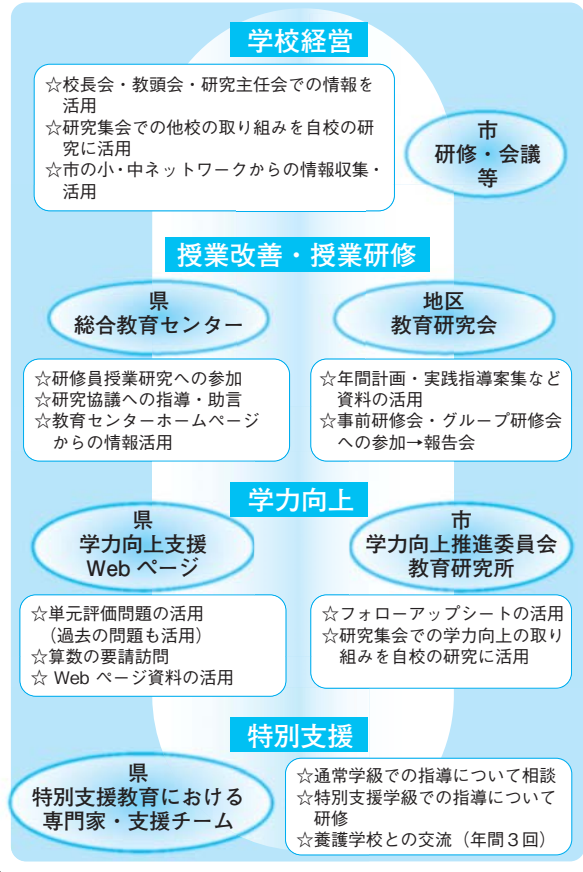
他の友達の家庭学習の仕方や内容の良いところを参考

友達のノートを見て、学んで、感じて、工夫する。

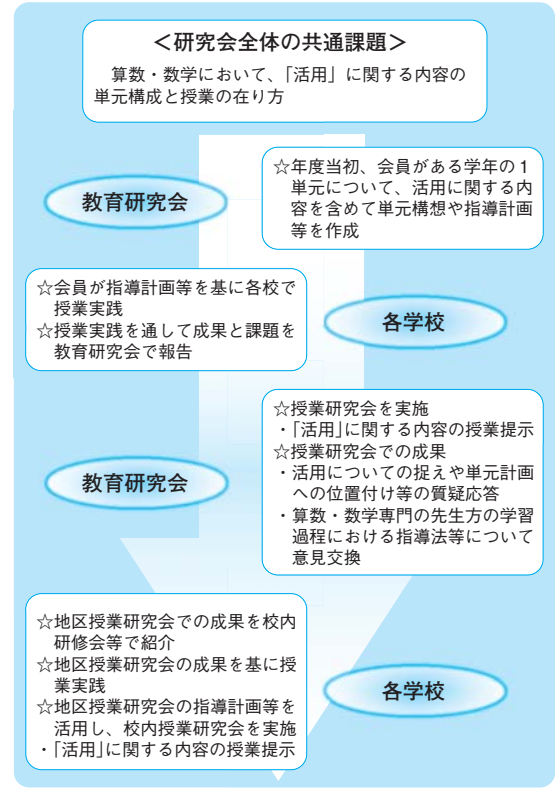
- ・家庭学習の仕方や友達がどれくらい頑張っているのかわかるし参考になります。(小6児童)
- ・友達の家庭学習のよさを話し合い、これからどのように勉強していくか会話が増えました。(保護者)
- ・ノートをリレーしないと行けないので責任感ができました。(保護者)

ネットワークを活用した学力向上の取り組み

<H小学校 学級数7>自校の課題を解決するために、多方面とのネットワークを利用して情報収集し、課題改善に活用しています。



地区教育研究会員が研究会全体の課題解決について話し合い、そこで提案された指導計画等にしたい授業実践を積み重ね、さらに授業研究会を行い成果と課題を共有しています。



トピックス

大分県の先生方から見た県内小・中学校のよさ

学力向上対策先進地研修のため、大分県から50名以上の先生方が本県を訪問し、11月に県内3地区の小・中学校を訪問しました。秋田県では当たり前になっている取り組みが、他県の先生方の目には特徴ある取り組みとなって映っているようです。

◎県教育委員会—市町村教育委員会—学校が組織的

・学力向上に対する県教育委員会の取り組みに具体的な手立てがあり、それに対して市町村教育委員会や学校が一体となって取り組んでいる。特に全国学力・学習状況調査と県学習状況調査がPDCAサイクルとなって活用されており、一つのことに重点を置き取り組む一点主義を貫いている。

◎教職員が同じベクトルを向き共通実践

・各学年で子ども主体の授業を意識しており、学習規律や発表話型など子どもたちに力をつけるための「基本形」が徹底している。板書計画に基づき、授業内容が分かり、振り返りができるノート指導を行うなど、組織的に授業実践している。

◎「当たり前のことを積み重ねる」ことで子どもたちに自信

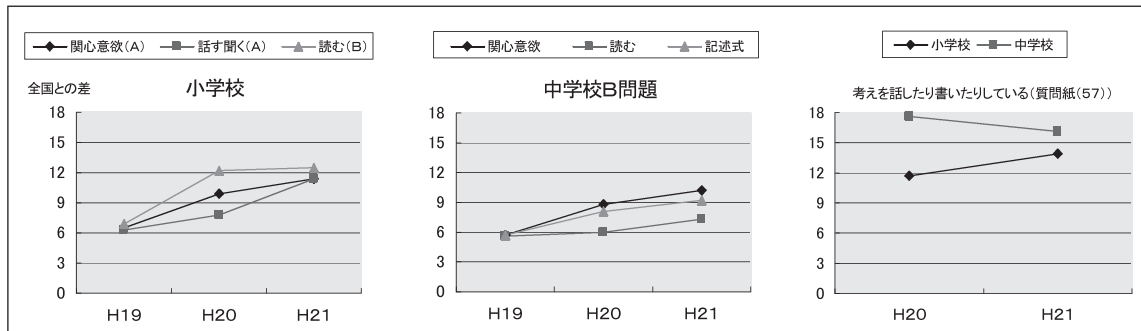
・子どもたちは自信に溢れて生活しており、一人一人が活かされている。そこにあるのは豊かな学校教育の営みであり、その使命を果たすために、教師としてやるべきことを淡々と実践している。これが秋田県の教育のすばらしさだと感じた。

Ⅲ 各教科の分析

(1) 3年間を通しての成果

国語

- ・ 小・中学校の各領域で、全国水準を上回っている。特に、国語への関心・意欲・態度(小・中)、読むこと(小・中)、小学校における「話すこと・聞くこと」について、年度を追うごとに、全国との差が大きくなっている。
- ・ 主に「書く能力」「読む能力」が問われる記述式の問題について、中学校のB問題で、全国との差が大きくなっている。
- ・ 話し合いや意見交換をする学習活動が充実し、「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたり」している児童生徒が多い。

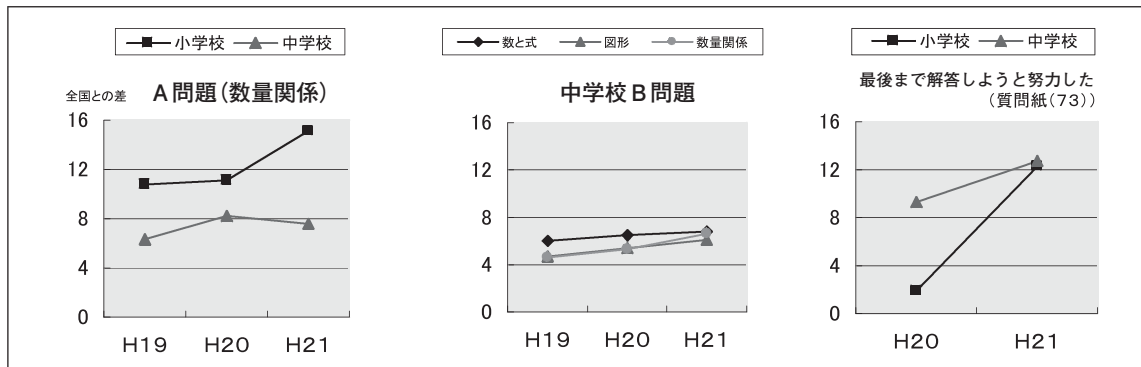


<今後の課題>

- ・ 文章に述べられている意見に対して自分の考えをもち、それを話したり書いたりする力に課題がある。二つの意見を比べたり評価したりしながら自分の考えをもつことを一層重視していく必要がある。
- ・ 目的や条件に応じて考えを書く力に課題がある。
 小学校→目的に応じて資料を活用し、伝えたいことを明確にして書くこと
 中学校→書き手の意図をとらえて読み取ったことを条件に応じて書くこと

算数・数学

- ・ 小・中学校の各領域で、全国水準を上回っている。特に、A問題では「数量関係」、B問題では、中学校において大きな伸びが見られる。
- ・ 「実生活における事象との関連を図った授業」や「ねばり強く問題に取り組む児童生徒」の割合が、全国平均を大きく上回っている。



<今後の課題>

- ・ 情報を整理、解釈して、それを基に筋道立てて説明する問題に課題がある。
- ・ 資料を活用して、適切に判断したり、理由を説明したりする問題に課題がある。
 小学校→グラフを基に、割合を求めたり、用いたりすること
 中学校→目的に応じて等式を変形することや証明の意義に関すること

(2) 授業改善の視点

国語

【例1】 目的に応じ、資料を活用して書く力を付けるために

[1単位時間における指導例] (小学校第1学年) <教材名: どうぶつの赤ちゃん(光村図書)>

本時のねらい ・ 紹介文を書くために、自分の選んだ本から必要な事柄を観点に沿って集めることができる。

〈指導のポイント〉

- ・ 文章全体を読んで、目的に応じて情報を取捨選択する学習活動を、低学年から取り入れる。
- ・ 「書くこと」のプロセスに沿った推敲や評価の仕方を身に付けさせる。

児童の思い

・ 「体の大きさ」「目や耳の大きさ」のことは選べばいいんだね。

・ 前に勉強したように、順序を表す言葉を見分けると分かりやすいね。「生まれてすぐの」「もっと大きくなると」とあるから……。

・ そうか！この紹介文には、育っていく様子を書くのだから、僕には□□のことより◇◇のことを入れた方がいいんだ！

学習活動

学習課題

〇〇の赤ちゃんのうまれたばかりのようすと、大きくなっていくようすをほんから見つけよう。

- 1 必要な事柄の見つけ方を確かめる。
- 2 読書タイムに自分の選んだ本を読み返し、紹介文に必要な事柄を見つけて付箋をはる。
- 3 同じ動物の本を選んだ友達とペアになり、見付けた事柄を確かめる。
- 4 発表してよさを確認し合う。
- 5 本時の振り返りをし、次時の見通しをもつ。

留意点

◎ 取捨選択の意識を高める。

- ・ 情報選択の観点を児童自身に気付かせる。
- ・ 目的に応じて情報を取捨選択することの意味を、モデルから学ばせる。

◎ 分類による情報の取り出し方を身に付けさせる。

- ・ 付箋の色分けや必要な事柄をメモすることによって、情報が取り出しやすくなることに気付かせる。

◎ 推敲や評価のポイントを明確にする。

- ・ 目的に応じているかを視念に、互いの選材の仕方を吟味させる。

【例2】 書き手の意図について読み取ったことを生かし、条件に応じて書く力を付けるために

[単元全体を通した指導例] (中学校第3学年) <単元名: 新聞の特徴を生かして書こう>

単元のねらい ・ 身近な話題から適切な題材を選び、読み手に伝えたいことを明確にし、紙面構成を工夫して記事を書くことができる。

〈指導のポイント〉

- ・ 身近な新聞記事などを活用した具体的な言語活動を取り入れることにより、社会生活に生きる国語の学習になるようにする。
- ・ 「読むこと」と「書くこと」の関連を図り、目的や条件に応じた表現の仕方を身に付けさせる。

生徒の思い

・ あのととき学習した読み方で、構成を比べてみよう。
・ だから事実の取り上げ方が違うのか。自分が前に書いた新聞は……。

・ 読み手は自分と同じ中学生だから、あのデータが必要だな。
・ □□ということ伝えるためには、スペースのことも考えると、リードと見出しは……。

・ なるほど。〇〇さんは、字数の条件を考えて、この情報を選んだのか。自分の選び方は……。

学習活動 (6時間)

- 1 新聞の紙面構成の特徴を知る。 (第1時)
- 2 二つの報道記事を比べて、書き手の編集意図をとらえる。 (第2時)
- 3 新聞の題材を探し、編集意図を明確にして構成を考える。 (第3時)
- 4 編集意図が読み手に伝わるように見出しやリード文などを工夫して新聞記事を書く。 (第4～5時)
- 5 相互評価をする。 (第6時)

留意点

◎ 「読むこと」の既習事項を生かす。

- ・ 構成や表現の効果をとらえることにより、書き手の意図が異なる編集の仕方に表れてくることに気付かせる。

◎ 取材・構成は、相手意識・目的意識・条件意識に基づく。

- ・ 編集意図が「見出し」「リード文」「本文」等の字数や内容等の条件に反映されることを踏まえさせる。

◎ 推敲や評価は、観点を明確にし、過程を重視する。

- ・ 単なる誤字や脱字のチェックではなく、意図と構成、条件と内容の関係について具体的に相互評価させる。